

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、法人の理念及び当ホームの理念を理解し、日々振り返りもしながら理念の実践に努めている。	法人理念とグループホームの「明るく楽しく元氣よく・その人らしく輝いて・優しい心で・地域に根ざして」の理念があり、新人職員も法人研修などで理念を学び実践している。ホーム理念は玄関入り口に掲示され来訪者も目にすることができ、サービス会議で読み上げをしたり家族には折にふれ伝えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方々への日常の挨拶、地域でのお祭り、節分、祇園祭など見物させて頂いている。近隣の保育園との交流会も年に9回開催している。	町中のグループホームであり、また、数々の地域のお祭りが生活の中にあり、お祭りには寄付をし地域住民と一緒に楽しんでいる。中高生のスプリングチャレンジボランティアや専門学校生の実習の受け入れ等も行われている。また、傾聴、外出支援、音楽ボランティアの訪問もある。保育園との交流が続けられており、年長の園児の歌や踊りがあり、また、年少園児とのスキンシップも図られ、普段見られないような利用者の笑顔が見られるという。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生や高校生のボランティアを受け入れたり、外出支援時にボランティアさんをお願いしたりするときに認知症の方の支援方法を伝え理解して頂けるよう努めている。企業ボランティア休暇者の週1回のレクリエーションボランティアを受け入れている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催、家族会時にも参加を頂き、事業活動、入居者様の様子、また行事など経過をお伝えし、意見をいただいている。消防署の方にも参加して頂き、指導もいただく機会にもなっている。	奇数月の第4金曜日、利用者代表、家族代表、民生委員、市職員などが参加し、利用者の状況、行事、ヒアリ・ハットなどの報告を行っている。昨年度、家族会の後に委員会を開き、多くの家族に参加していただいたこともある。市職員から要介護者の推移などの情報を聞き参考にしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通し、市への報告を行ったり、広域連合より来られる介護相談員さんへ入居者様の日頃の様子をお話したりしている。また、認定調査員さんへは、個々入居者様の心身状態を細やかにお話している。	地域包括支援センター主催のケア会議に出席し情報を得ている。介護保険更新申請は家族より依頼がある時は代行申請している。区分変更申請も同様に行っている。認定調査時は家族同席も含めホームから利用者の現況を伝えている。今年度、実地指導があり、1歩踏み込んだ提案などもあり、ホームの運営に活かしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会に職員1名所属し、毎月参加。身体拘束を行わない為の会議を定期的にホームにでも開催。センサー式コール、センサーマットを使用しながら行動の抑制、身体拘束をしないケアの実践	毎月法人で行われる研修に組み込まれている。ホーム職員が「身体拘束廃止委員会」のメンバーでもあり、ホームでの勉強会も行っている。リスクについても職員は学び理解している。転倒等のヒヤリハット事例が起きた時には事故検討会議を開き職員で意見交換しながら拘束をしない代替方法を選び支援している。		

グループホームぼうやま敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員のストレス、身体疲労の緩和に努め入居者様への尊厳、倫理感を持って職務に当たる。認知症の理解、パーソンセンタードケアを進めることで防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見人制度について資料の読み合わせ、理解し必要とあれば活用したいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、重要事項説明を十分に行い、不安の無い手続きをします。改定時には、文章添付の上説明をし、ご理解いただけますよう対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を用意し遠慮なく要望等を伝えて下さるよう努めている。面会時には、細やかなお声掛けをさせて頂き、気軽に相談して頂けるように努めています。	昨年度は新年会、敬老会を兼ね家族会を開催した。今年度は誕生会に家族を招待している。9名の利用者は思いを伝えることが可能で、食べたい物や外出などの要望を伝えられる。家族の来訪の頻度はそれぞれ違い、毎週訪問される方、月に1回の方など様々であるが、家族訪問時には利用者の様子を伝え家族よりの要望なども聞き、介護計画に組み込んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常に職員の相談に乗ったり、知識・技術等の指導をしています。職員ノートに沿って面接を行ったりし、活力のある職場づくりに努めている。	法人として平成28年度より人事考課制度がスタートした。毎月行われるサービス会議では伝達事項、カンファレンスなど利用者中心に話し合いを行っている。法人のグループホームや上田地区のグループホームの交換研修も行われている。研修、資格取得にも法人のバックアップがあり職員が働きやすい環境が整備されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を利用しながら職員のやりがい、目標設定を行いながら働きやすい職場環境づくりを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員のそれぞれの実績と力量を見極め、法人で行われている研修・勉強会への参加を促したり、自ら育成に当たっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	フレンド会(近隣グループホームの会)に参加し、交流、交換研修を行っている。また、法人内での交換研修もあり、互いに向上し合いサービスの質を高めていく機会となっている。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の訴え、思いに耳を傾け、ご本人様が安心して生活に臨めるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が、不安に思う事などしっかりお聞きし、心配事が少しでも軽減できる対応に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様とご家族様が望む生活のニーズをしっかりとお聴きし、あらゆる社会資源を取り入れての支援に努めたいと考えます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の歌や、風習や、方言等教えて頂いたり、長い人生で養われた思い、考えを伺い学ばせて頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、請求日には日頃の様子を記載したお手紙を添えてお伝えしたり、面会時にもご報告しています。また、通院介助・外出お誕生日会もご家族様の協力を頂きながら共に支援しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援時には、ご本人様のお住まいの方にドライブをしたりします。ご家族・友人の面会もいつでも歓迎しております。ご家族の元への外泊も行っている。	正月などの節目に外泊をする方がおり、馴染みの美容室を家族や職員に付き添われ利用している方もいる。昨年、入居した方がホーム近くに自宅のある方で、友人達が「同級会に行こう」、「食事会だよ」などと声掛けをしてくれ、利用者との付き合いが継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングのどのお席も好きな所に座って頂き、職員も入居者様の輪の中に入り、和やかに会話できる雰囲気作りに努めています。		

グループホームぼうやま敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス契約が終了した後も、住替えなさって頂いた施設に面会に行って必要な情報提供に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様個々の担当職員を中心に、本人の希望を伺ったり、本人の行動、発語より本人の思いに添うよう努めています。	毎日の生活を通じて、一人ひとりの利用者の会話や行動から希望することを拾うよう心掛けている。新しい利用者が慣れるまで臨機応変に対応することもあり、職員の柔軟な対応で利用者との信頼関係が築かれている。小さなことであるが利用者一人ひとりの役割を決め、張り合いを持って生活していただけるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様から生活歴をお聞きしたり、前のケアマネさんからの情報提供により、経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員記載の記録、申し送りから現状を把握して対応に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のサービス会議時に、入居者様各担当モニタリング記載、発表してもらい以後のサービスについて検討している。また、週に一回の訪問看護師よりの意見、指導を受けサービスに反映させている。	利用者や家族の要望を聞き計画作成担当者が作成している。職員による利用者の担当制をとり、それぞれ1・2名の利用者を受け持っている。担当職員が月1回モニタリングを行い、サービス会議でカンファレンスを行っている。利用者本位のプラン作成を心掛け、役割も書き込まれわかりやすいプランとなっている。定期的な見直しと状況変化があったときの随時の変更も行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を詳細に記入し、特別なことは申し送り事項へ記載して申し送り、職員間での情報の共有を計り、計画への見直しにも活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の都合等に対応して、通院介助や、緊急の場合の入院付添いなど、臨機応変に対応しています。		

グループホームぼうやま敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域からのボランティアさんの受け入れや同法人うえた敬老園よりの応援や定期的に来て下さる傾聴ボランティアなど、地域、周りの方々に支えられ、楽しみを頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様が受診時付添いをして下さっている。必要に応じて医師の情報提供を文章で行ったり職員が同行させていただいたりしている。	個々のかかりつけ医を継続している。訪問看護が週1回あり、相談したり指示を受けながら利用者の体調管理に役立てている。通院は家族付き添いを原則としているが職員が付き添うこともあり、その際の窓口も一本化している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携を結び、週1回の定期的な訪問によって各利用者様の日々の健康管理に努めている。医療的支援が必要になった際には、指示を受け医療機関の受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、随時病院へ伺い、主治医、看護師、相談員より情報を交換、共有し、安心な治療を受けて頂くとともに、早期退院となるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人としての看取りの指針があり、入所申込時には説明を行っている。また重度化、医療的ケアが必要となりうる時には、医師、家族、本人、職員で話し合い検討されている。	契約時に「重度化対応及び終末期ケア対応指針書」が用意され説明している。利用者のかかりつけ医の往診が可能かどうか条件の一つになるので現在は往診可能な医師を見つけている段階で、ホーム協力医からは移り住むことを提案されることが多い。過去には往診可能な医師の関わりがあり看取りが行われたこともある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人で行っている救急法の研修に参加しており、急変時の初期対応に応じられる力は身についている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練、消火器取扱い訓練の実施。防災対策委員会を中心に備蓄品の用意、上田東地区の防災マップ作成中。	年2回訓練を行っている。自治会長、民生委員の参加もあり近くの公民館に避難をしている。訓練は消火訓練、避難訓練を行い、消火訓練のときは消防団の参加をお願いしている。市主催の「防災会議」に出席し土砂災害などの話を聞いてきた。法人では2ヶ月に1回防災会議を開き、法人独自の防災マップを製作中である。食料や介護用品の備蓄も用意されている。	

グループホームぼうやま敬老園

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者様に対し、人格、尊厳を尊重するように努めています。馴れ合いからの言葉によってプライバシーを損ねぬよう指導を行っている。	法人の上田東ブロックとしてサービス向上委員会があり外部より講師を招き研修を行っている。食堂の壁にサービス向上委員会の標語が掲示され職員が常に意識できるようになっている。入浴などについて、女性介助を希望されている利用者の対応については初めから女性で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションをしっかりと行う事で本人の思い、希望を知るよう努めている。選択肢を使った声掛けにて自己決定して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務的に仕事をするのではなく、利用者様個々のペースを大切にし、その人らしい日々が過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容をご自身で行って頂きながら身だしなみを自身で気にできるよう努めている。定期的に美容室、散髪に行かれています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が立てた献立をもとに地元の食材を中心に使い、利用者様の希望を聞きながら食事作りをしている。利用者様に味見をして頂いたり、盛り付け、食事の後片付けを手伝って頂いている。	全介助の方を除き他の方は見守りや声がけで、刻みやミキサーにかけたりして全利用者が同じ料理を職員と一緒に食べている。本部の管理栄養士が作成した献立を利用者の希望を聞き、アレンジしながら職員が交代で調理している。ホットプレートを使いみんなで手を出しながらの料理も好評であるという。訪問調査当日の昼食も馴染みある家庭的な料理であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態を常食、刻み、ミキサーとし、毎食全量召し上がれるよう支援している。食事以外の時間にもお好みの水分を提供しながら1,500CCを目標としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを必ず実施しています。義歯洗浄介助、自立の方にも促し、見守りを行う事できちんと磨いて頂いています。また、週2回、義歯洗浄剤を使用して、清潔保持に努めています。		

グループホームぼうやま敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様に合った排泄支援、オムツを使用し、入居者様全員トイレ誘導を行っております。	基本的にトイレでの排泄に対応している。職員が時間帯によってパッドを使い分けたりトイレ誘導の声掛けをし、個々に対応しており、家族からも経費面で喜ばれている。夜間、厚めのパッドを使用する方や起きてトイレへ行かれる方など様々で、見守りと介助をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の摂取や冷たい乳製品、水分の提供や、軽い運動を取り入れたりし工夫をしております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本としているが、毎日お風呂は準備しているので、希望をお聞きしながら対応しております。他、便失禁等で必要時にも入って頂いています。	基本的に週2回の入浴としている。利用者から希望が伝えられたときは予定日以外でも対応している。全員が職員の見守りと介助を受けながら入浴している。自分だけのシャンプーを用意している方、お風呂が苦手な方もいるが、目先を変えて同じ法人のデイスサービスの大きなお風呂を月に1回くらい皆で利用し気分転換している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お疲れの表情が伺えた時には、居室で横になって頂いたり、その時々に応じて見守りをしながら対応しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人お一人に服薬内容がファイルされていて、職員それぞれが理解しています。誤薬、飲み忘れが無いようダブルチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	リビングで、皆が一同で風船バレー、カルタ取りなどレクリエーションに参加することもある。個々で洗濯物たたみ、豆分け作業をすることもある。楽しみながら、気持ちよく参加されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添った外出支援に心掛けている。皆様一同に出掛ける行事(花見、七夕、紅葉狩り)や、個々に対応して、近隣のスーパーへおやつを買いに出かけることもある。生き生きとした入居者様の笑顔が見られます。	家の中では自力歩行の方も外出行事のときは車いす対応となる。同じ法人の近くにある複合施設の地域交流スペースまで散歩してお茶を飲んだり、近くの和菓子店へおやつのお饅頭を買いに行ったりしている。今年度はお花見などの外出行事に家族にも声をかけ参加して頂いている。また、外食や外出先でお茶などを楽しむ機会も作っている。	

グループホームぼうやま敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、お金を所持されている入居者様は居ません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、知人からの個人的電話もお繋ぎしますし、ご本人からのお申し出があった場合には、いつでも対応します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	電気の色合いや、カーテンの色も温かみのあるものを使用しております。また、壁などには季節に応じ飾り物を作成し飾るなど工夫し、心地よく過ごせるよう努めています。	玄関には理念や外部の方への広報文書が掲示されている。食堂入り口には職員の写真と名前が紹介されている。利用者の行事の時の写真がたくさん飾られ、日頃の生活が窺えた。食堂は程よいスペースであり利用者の移動に職員が付き添うときには近所の利用者に小声で「後ろ通ります」の掛け声でスキップが図られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのどのお席も決めることなく、その時々、思い思いの場所に腰を下ろされ、入居者様同士で交流されている事も良くあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れたもの、なじみの物を持ち込んで頂けるようお願いしています。それぞれ差はありますが、当ホームからは、お祝メッセージ、写真をプレゼントし飾って頂いています。	ベッドと洗面台が備え付けられている。家族からの年賀状や孫・ひ孫の写真入りのはがきが壁に張られ、行事の写真も飾られていた。テーブル、ミニタンス等が家庭より持ち込まれ、居心地が良いように配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の日々の生活で出来る事、支援が必要なことを知るにより、ストレスなく生活が送れるよう努めています。		